

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	変化に乏しい入居者の介護計画も、もう少し掘り下げ定期的に見直していく必要がある。	全職員が入居者の状態把握ができ、介護計画に沿った的確な援助が出来る。	介護計画は概ね3ヶ月に1回見直しているが、毎月状況報告を兼ねた「あかとんぼ新聞」で入居者家人個々に報告しているが、編集にあたり個々の状態等を担当者だけで無く、全職員でカンファレンスを行っていく。	12ヶ月
2	35	非常災害時の対応について建物の構造上2階住居部分が2/3あり避難誘導について今ひとつ効果的な方法を検討する必要がある。	特に夜間帯で人員配置が最小限の際での避難誘導について最小限の動きで避難誘導が行えるようになる。また全職員が定期的に再確認できる体制を整える。	避難訓練は年2回行っているが、マニュアルを簡素化、誰もが最小行動により、最大限の避難誘導、緊急時対応ができるように見直す。	12ヶ月
3	33	重度化に対する対応について、看取りを視野にいったニードの変化をとらえ、その都度その都度再確認する必要がある。	入居者、家人への定期的なニードの探求、変化があった時のニードの把握を徹底する。	入居契約時には必ず看取りの指針に沿って説明し、定期的、変化時には必ずその都度経過を看護記録に記載し、全職員が共有できるようにする。	12ヶ月
4	49	利用者に合わせた個々の外出について、また日常生活の流れにおける外出の支援をもう少し一考していく必要がある。	地域行事の参加に加え、事業所から地域へ行事の開催を発信したり、地域との関わりにより、個々の生活における外出頻度が増える。	地域の方々が気軽に来所し、談話したりできる雰囲気づくりのための計画を全職員と共に考える。(例)行事開催発信、売店、喫茶コーナー設置	12ヶ月
5	54	重度化されている入居者の居室空間について特に個人的な空間としての環境を整える必要がある。	個性的な居室空間ができる。	馴染みの家具、物品、家族の写真等の持ち込み等を家人に依頼する。	12ヶ月